

4 学校教育計画

項 目		目 標・方針及び計画	
(1)	校務運営	目 標	・運営組織の活用を図り、適切・円滑な学校運営を目指す。
		計 画	・校務の各分掌相互の連携を密にし、校務運営委員会、各種委員会、職員会議等をとおして全職員の共通理解を深め、学校の活性化を図る。
(2)	教育課程	目 標	・新学習指導要領を踏まえ、生徒の実態及び学科の特色を活かした教育課程を編成する。
		計 画	・基礎・基本を重視しながら学力の向上を図る。 ・多様な生徒に応じた適切な指導法を研究する。 ・先端技術を積極的に取り入れた専門科目や、草花・野菜・造園の3系列を設ける。
(3)	学習活動 重点1	目 標	・学習習慣を身に付け、基礎学力の定着を図るとともに、それらを活用する能力を養う。 ・生徒の実態に応じたわかる授業の実践を通して、学問に対する探究心を育成する。
		計 画	・資格取得を奨励し、合格に向けて学習させることで、学習習慣の定着や学習意欲の向上を図る。 ・長期休業中に、課題図書を出し、読書や感想文を書く機会を増やす。 ・互見授業や研究会、ICT活用、ユニバーサルデザイン化をとおして 授業の改善 を図る。 ・学習の手引きを活用し、生徒が目標をもって学習できるように工夫する。
(4)	特別活動 重点2	目 標	・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
		計 画	・時間厳守を指導の重点に置き、 基本的生活習慣の確立 を図る。 ・全校生徒への呼びかけ・声かけ及び活動掲示板の活用などにより、 ボランティア活動を推進 する。 ・地域の環境美化整備活動を行う。
(5)	進路支援 重点3	目 標	・全生徒の希望に沿った進路の実現を図る。
		計 画	・個別面接の機会をとおして 進路意識を高め 、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・個別指導（面接、小論文指導）により 進路実現に必要な能力を養成 する。
(6)	学校生活 重点4	目 標	・自らの命を大切にし、他の命とともにより健康に生きようとする意欲を育てる。 ・特別な教育的支援が必要な生徒の早期発見に努め、全教員で支援に取り組む体制を確立し指導にあたる。
		計 画	・定期的に生徒保健委員会を実施し、委員会活動の見直しを行い、活動を充実させることにより、生徒の 健康増進と環境美化 への意識を高める。 ・ 教育相談連絡会 を定期的に開き、教職員の共通理解を図る。また、スクールカウンセラーや関係機関等の助言の下、 特別支援教育・教育相談の充実 を図る。
(7)	学習活動 (専門教科) 重点5	目 標	・農業の各分野における様々な学習や体験等を通し、専門教科を学ぶことの楽しさや自信をもたせる。
		計 画	・資格・検定取得は、教科内実習・農業クラブ活動等と連動させて計画的に指導するとともに、 農業学習への意欲の向上 を図る。 ・教科内実習や保護者面談をとおして、生徒及び保護者に 積極的にインターンシップ等に参加 するように促す。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	基礎学力の向上と授業改善
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎となる「読む力」・「書く力」・「計算する力」が必ずしも十分ではない生徒がみられる。 ・学力や学習意欲に差が広がりつつある。 ・目標をもって計画的・継続的に学習する習慣が身に付いていない生徒が多い。 ・普段の予習・復習、定期考査や各種検定に向けての家庭学習の取り組みにも個人差が大きい。
達成目標	① 生徒の実情に応じた基礎学力の定着を測るために、ICT活用やユニバーサルデザイン化を推進する。
	② 生徒の授業への満足度 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会を通して、個々の生徒の授業態度や特性、支援方法などについて共通理解を深める。 ・ICT活用について資料を配付し、理解を深める。 ・互見授業、研究授業懇談会などを含めて、年間5回以上の研究会を開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に授業や学習についてのアンケートを実施し、その結果を授業に生かす。 ・全教員の互見授業をとおして学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。 ・参観した授業の感想や意見を授業担当者に伝え、授業に生かす。 ・互見授業期間は保護者に授業を公開する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和3年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活・特別活動
重点課題	基本的な生活習慣の確立及びボランティア活動の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、物を大切に使う、服装を整えるなどの学校生活を営む上で最低限度必要なきまりに対して自分の尺度で判断し、基本的な生活習慣が確立されていないまま、曖昧に過ごしている生徒が少なからず見受けられる。これまでの継続した指導のおかげで、生徒は少しずつ理解し、昨年度は数値的に大幅に改善され初めて達成した。今年度はその継続性などの検証を行いたい。 ・ただ、やはり挨拶などの礼儀作法がきちんとできる生徒が減少しており、この点は継続して粘り強く指導する必要がある。 ・地域と密着したボランティア活動として、本校の特色をいかした花プランター配布、社会福祉施設などへの雪吊り・雪囲い等の緑地管理ボランティアを行なっている。しかし、生徒の希望進路に依るところがあるとはいえ、最近では社会福祉施設での介護ボランティアなど福祉現場活動に携わる生徒はかなり少ない。 ・全校生徒で一斉に、継続して行っている「清掃美化活動」については、地域への貢献や奉仕の精神に関心を持たせる恒例行事として定着してきた。また、これまでの数値目標については、常に達成されてきたので、目標数値を一人あたり0.5回高く設定することとした。
達成目標	① 年間遅刻回数 全生徒で延べ150回以下
	② ボランティア活動参加回数 一人あたり2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守り、挨拶が自然に交わせるような学校の雰囲気づくりに努める。 ・登校時早朝指導を年間を通して実施し、遅刻防止、挨拶や服装指導もこなう。また、学期始めを中心に指導強化週間を設け、習慣付けを図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒への積極的な呼びかけ、声かけと共にボランティア活動の掲示板を活用。 ・各種研修会への積極的参加。 ・地域に密着した環境美化整備活動の推進。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和3年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路に対する意識が漠然としており、具体的な将来像を描いたり、目標を設定することに困難を感じる生徒がいる。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒や基本的な学習習慣が確立していないため、進路実現に必要な基礎学力や技能が身に付きにくい生徒がいる。 ・コミュニケーション能力等、社会人としての必要な基本的能力が不十分である。 	
達成目標	① 個人面接の実施回数 ＊生徒一人あたりの年間の回数とする。	② 進路希望実現率 ＊対象生徒は進学及び就職を希望する者とする。
	1・2年生 5回以上 3年生 10回以上	100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面接の機会を増やし進路意識の高揚を図ると共に、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・日頃の授業を大切に、基本的な礼儀の定着と、基礎学力の向上に努めさせ、適切な進路の選択を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路特別講座、企業訪問、学校見学を通し、具体的に進路先について考えさせる。 ・個別指導（面接、小論文、作文指導等）を通して、進路実現に向けた適切な指導を行う。 ・就職支援機関・保護者との連携を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和3年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣・教育相談	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や友人関係などさまざまな悩みを抱えていることで、身体の不調や心の不安定を訴えたり、スマートフォンやゲームの長時間使用などで基本的な生活習慣が乱れていたりする生徒が多く見受けられる。 ・専門家の支援を要する生徒が複数いる一方で、全教職員で指導支援の体制がまだ十分に確立されていない。 	
達成目標	①生徒保健委員会活動などを通して、生徒の健康や環境美化意識の向上を図る。	②スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員の面談指導を充実させることで、生徒の心の成長を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活調査を実施し、改善が必要な生徒に保健指導を行い、基本的な生活習慣を整える。また保健だよりの定期発行や掲示物等で健康への関心や知識の向上を図る。年10回以上たより等の発行（保護者向けたよりを含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員による面談の実施後に、当該生徒、保護者等に対して、満足度をインタビュー形式で調査する。 <p>満足度70%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・機会をとらえて、人間関係づくり、身だしなみや生活習慣など心身に關わるテーマで、グループ指導や個別指導を実施する。 ・健康に關わる情報を発信し、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指すとともに保護者への理解と協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員の助言を参考に、教職員と家庭との連携を深め、適切な支援を行う。 ・職員会議後定期的に教育相談連絡会（年6回程度）を実施し、全職員の共通理解を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和3年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	学習活動（専門教科）	
重点課題	農業学習の意欲向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・資格・検定に興味や関心を持つ生徒が減少傾向にある。 ・農業クラブ農業技術検定、危険物取扱者試験、造園技能士（3級）等の資格取得の取り組みと授業との連携が希薄である。 ・農業教科に興味や関心の低い生徒がいる。 	
達成目標	① 農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加と合格率の向上。	② 県内委託実習（インターンシップ）や校外での農業に関する体験者（販売実習や造園ボランティアなど）の増加。
	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物取扱者資格取得 延べ5名以上 ・造園技能士 3名以上 ・農業クラブ技術検定 延べ30名以上 ・農業クラブ県大会入賞 3名以上 ・農業クラブ全国大会入賞 3名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内委託実習 5名以上 ・就農青年育成懇談会 10名以上 ・中学校、商店街等の販売実習 5回以上 ・県農教振本部事業 10名以上 ・その他ボランティア活動 延べ100名以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の必要性を説き、受検意欲を高め、受検者を増やす。 ・年間の資格・検定取得について示し、計画を立て学習させる。 ・教科内実習・農業クラブ活動・補習等と連動させて計画的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内実習や面談をとおして生徒及び保護者に積極的に参加するよう促す。 ・インターンシップの実施時期の検討や、新しい受け入れ先を開拓し確保する。 ・農業体験ができる環境を整え、参加する選択肢を増やす。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)